

第15回銀華文学賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第15回銀華文学賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国および海外から総数二〇九編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る四月三〇日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。
無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。長いタイトル、複数タイトルは短く省略させていただきます。

北海道

- 釜爺の涙 鷺津 勇
生涯教育 ゆさひでのり
髪あらい 和田さとし
日本列島を駆け登る 栗山佳子
雪かき男 青木ガリアン
夏休み 団周五郎
オンリー・ロンリー 山本御覽
古里『碧水』地名考 飯名碧水
黎明期の雪の原 藤川とみ枝
霧のむこうに 東岡征子
雪鬼 清島美のり
ひかりの音 悠希マイコ
石上3番の笑顔 鮎村 尚

青森県

- 泣くな一郎 今井芳夫

岩手県

- バルカンの星の下に 中里治人

宮城県

- 橘柑匂う頃 吉田宏子
水無川あふるる 大谷 努
山形県
上山宿始末 小笠原新
プレイクスルー 塩崎憲治
鳴動の果て 高橋惟文
茨城県
沈下橋 諏訪崎はるえ
四万十の石 佐津前浩
旅立ちの切符 友 修二
バステル・パーク 中庭昌樹
小説レシビ 梅原凜太郎
栃木県
両鳩 石川 侃
偶然と必然 平山嗣人
群馬県
雫の祈り ユラン

埼玉県

- 雨上がりに 藤木由紗
えんか 小島恒夫
上野駅 こむろたいじ
狂ったキリスト 北川 聖
家族全員・精神科・更に夫婦別居 横田 明
七月のカモメ 林野浩芳
セピアの溪 根岸幸姿
青春の彷徨 折口 真
オムライス 秋野佳月

千葉県

- 二ネベの魔法使いたち
虹の存在 裏山シシオ
独り、壊れていく 高橋ひとみ
マジックヒューズ 山田 明
宵闇の花 相歴史哉
やまおこ玉 山田英樹
天国の扉 梅田丘匠
米蔵
東京部
フィニッシュヤーズ・タオル 伊和七種
明日に架ける橋 奥田謙治
恋のオーラII エドワード佐野

東京都

- 過去解析機 高尾周一
父のネクタイ 小倉智也
姉・弟 小室澄江
瑠璃の家 松本昂幸
クマさんの結婚記念日 牧康子
桜の木の下で 中村福子
双眼鏡 松本りゅうじ
帰京 君津佳孝
池袋の日 遠藤 圭
満洲補充読本 朝川あきら
おやじの嫉妬 鈴木邦夫
ゲームの行方 四方康嗣
安芸木菟 安芸木菟
結婚しない 九条之子
雨女 室町 眞
無償の愛 飯塚久美子
私を殺して 東のぶこ
小袖 林ちなみ
巢立ち 三田村保歩
ぬくもり 長野正毅
N家の人々 みやがわ芽生
テロの源流 風樹 茂
鬼婆の子守唄 ツキノマコト
三人の連歌 斉藤 譲
黒い森、あるいはミハイル・アレンスキーという男 土屋 慶

巡礼

- 右手 あおいなつ
赤い太陽 邑崎龍哉
カスパの女 立花野風
家族のホゾ 竹中 寛
あこがれ 阿島美央
飯装 深山皐月
天使はもう一度夢を追う 蒲田あやめ
福泉幸生

新潟県

- 永遠の一瞬 麻如莉樺
失恋―建築士物語その一― 和羅有
偕老同穴の契り 鈴木和子
昔の国 黒沢良子
8ビット 佐々木汐
心意気 山本嘉彦
メイからのライン 桂秀
バックステージ 栗山祥子
後は青山に至るのみ 水生武史
小夜とパパ 阪下次郎

富山県

- やるせない人 道 明

石川県

- つむじ風は踊る 工藤哲椰

福井県

- 引き出しから蝶が飛びたつ 松下 卓

山梨県

- 愛の暮らし 倉沢辰子

長野県

- 淡雪―点の記憶― しかない女

岐阜県

- 燈影 川井裕樹

静岡県

- 再会 藤倉 涼

愛知県

- 愚鈍 山田 宏

滋賀県

- 青く染め 切塗よしを

京都府

- 娘との和解 谷口俊明

大阪府

- 潮騒〜真琴の純情 北条かおる

奈良県

- ふたりの手 佐藤 勉

和歌山県

- 春の浅い夢 奥村郁雄

滋賀県

- 黒装束の女 夏川 陽

和歌山県

- かみなり様 招き猫マリア

岡山県

- 怪雨 中崎紫紅

- 広島県
 - 「残り香」 伊藤秀輔
 - 「輝きたい灯りはみずからを尽くさなければいけない」 正戸文希
 - 「時空をこえて」 たまのたえこ
 - 「あの日、あの空、あの飛行機雲」 森田昌樹
 - 「裸木の願い」 涼山 晃
 - 「ねないこ おばけ」 いまだまりこ
 - 「雨に濡れて」 飛葉哲朗
 - 「警察署長の手控え帖」 梶川洋一郎
 - 「七日間騒動」 横山太一
- 山口県
 - 「ロッキングチェアとゆりかご」 木澤 千
 - 「無垢なる子宮」 西村修子
- 徳島県
 - 「残照」 山谷麻也
 - 「一本杉」 菊野 啓
- 「瘋癲じじいの同窓会」 間崎 徹
- 「セカンド」 木村 文
- 香川県
 - 「存えて」 白峰 綾
- 愛媛県
 - 「ある傷痕軍人の戦後」 西山慶尚
- 高知県
 - 「猫が愛した世界」 桑島良夫
- 福岡県
 - 「追懐の初恋」 満州旅人
 - 「長崎の風」 由比和子
 - 「路線バスに乗って」 今林義和
 - 「雨の休日」 後藤克之
 - 「虹」 下城雪兎
 - 「これまでもこれからも」 花里みちる
 - 「色彩」 下釜美和子
 - 「河畔の家」 鐸木英莉
 - 佐賀県
 - 「純友は生きていた」 尾崎栄道
 - 熊本県
 - 「河口の見える理髪店」 宮川行志
 - 大分県
 - 「二人の軍師」 笠置英昭
 - 「ドドンパ」 松本 馨
 - 宮崎県
 - 「カーナビの遼くん」 中武 寛
 - 沖縄県
 - 「サルビヤの咲く庭」 鶴屋きいち
 - 「人生最良の日」 野原めぐみ
 - 「バイバイ、グッド・ラック」 国粹としひで
 - 海外
 - 「エイリアンは風人」 MADSEN紀子
 - 「一粒の実りを願って」 荘ユリコ
 - 「夏、プラハにて」 おのえ桜子

■応募者の皆様へ
第一次・第二次・第三次の選考について

「文芸思潮」銀華文学賞・新人賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に伝わる文章になっていくかどうか、最重要の基準点となります。また書く姿勢を加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢が曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありませぬ。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものが選ばれます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなるという、一つの魅力を持っているかどうかのポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの方に読んでほしくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、ほぼ雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけていきます。したがって、場合によってはたくさんさんの作品が三次予選、さらにはその上に選出される可能性もあります。

どうかこれらの点を御了解くださいますようお願い申し上げます。またご自身の文章力が具体的にどれくらいのレベルか、文章力検定も併せてご利用いただけましたら、文章技量向上の一つの目安になると思います。

(銀華文学賞・新人賞選考委員会)